

## 第14回

# 朗読・本棚「花みずき」朗読会

2018 ～春～



朗読の  
楽しみ方  
いろいろ！

と き 3月29日(木) 14:00～16:00 (開場 13:30)

ところ メディアセブン・プレゼンテーションスタジオ

JR川口駅東口 歩行者デッキ3分 きゅぼ・ら本館 7階

### ----- プログラム -----

#### 1. 芥川龍之介 『蜜柑』 \_\_\_\_\_ 堀口由美子

疲労と倦怠の中にいる私に、更に心重くさせる少女の不可解な行動。が、その先に見えたのは…  
芥川が海軍機関学校の教官をしていた時の、通勤途中に出会った出来事を綴ったものとか。

#### 2. いしわたり淳治 『さみしい夜は』 \_\_\_\_\_ 岡崎重美<sup>しげよし</sup>

日本の街、社会から、若者の生活に欠かせないアレヤコレヤが、一つまた一つと姿を消してゆく。  
一方、TVの深夜放送枠を独占するようになったのは政治討論会。老練な政治家達が話すのは？

#### 3. 武田百合子 『花の下』 \_\_\_\_\_ 野辺明子

さっぱりとした花ですね。ここのお社の桜は----- と、老女が軽妙な口調でしゃべり掛ける。  
社会批評もありで何ごとズバズバ。年齢は80歳、うなぎが好物、なんて話も出ましたがー

～ 休 憩 ～

#### 4. 宮沢賢治 『ひのきとひなげし』 \_\_\_\_\_ 荻原あさ子

ひのきの足元で、可憐で美しいのにそれに満足できないひなげしたちが愚痴を言い合っています。  
春嵐のなか、その寂しい心につけこんで、悪魔が忍び寄る。賢治最終盤に完成された童話です。

#### 5. 宮沢賢治 『祭の晩』 \_\_\_\_\_ 竹川智子

山の神の祭りの晩、呼び声につられて入った見世物小屋で、亮二は、赤ら顔の大男と出会います。  
賢治の故郷岩手に伝わる山男伝説をモチーフにした童話で、没後遺稿集に編纂された作品です。

#### 6. 谷川俊太郎 『あさ・朝』 『ゆう・夕』 \_\_\_\_\_ 内田順章・いなだなお

写真家吉村和敏とコラボした、対をなす「写真・詩集」。右に開くと、詩とそれに添えられた写真。  
左に開くと、刻々と表情を変える風景写真と添えられた数行の言葉。その中から数篇をご紹介します。